

① 正体
② 自ら
③ 売買

④ 当番
⑤ 形見

2
1 A エ
B ア
C イ

2 I イ・エ・オ
II 再生

※2 I(順不同・完答)
III 一方
3 ア

4 ア 2
イ 1
ウ 2

3
1 イ
2 お
3 家

※2(完答)
※4(完答)
3 転校
4 お
る

5 エ
6 イ

7 わすれんぼう
8 五

配点	
①	各2点×5=10点
②~③	各5点×18=90点
<計>100点	

じゅ 受	けん 験	ばん 番	ごう 号	名 前	ひょう 評	てん 点
						/100

① 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①「正体」は「そのものの本当の姿」という意味の他にも「はっきりとした意識。正気」という意味もある。②「自ら」は自分のこと。「自ずから」だと「おの(ずから)」と読んで、「自然と」という意味になる。③「買売」と書かないようにしよう。④の「当」は一画目から三画目の筆順や形に気をつけること。⑤「形見」は「形身」としてしまわないようにする。

②

- 1 A (A)の前では羽の枚数が多かったり幅が大きかったりする場合のプラス面が書かれているが、後ではマイナス面が書かれていることから逆接の「しかし」がはいる。
B (B)の前後で羽の枚数が多かったり幅が大きかったりする場合のマイナス面がならべられていることから並列の「また」がはいる。
C (C)の前で問題となることが書かれていて、後でその解決策が書かれていることから順接の「そこで」がはいる。
- 2 I 本文二行目に「太陽光や風力など水力以外の再生可能エネルギー」とある。水力も再生可能エネルギーであるので、数にふくめなければならぬ。
II・III ——線①の前に「この」とあるので、ここより前から再生可能エネルギーのプラス面とマイナス面について書いているところをさがしていく。プラス面は環境に与える影響が小さく、枯渇の心配がないことで、マイナス面は発電量が天候に左右されたり、広い土地が必要になったりすることである。
3 「ふさわしくない」ものをえらぶことに気をつけよう。ア「小学生は考えなくてよい」と考えているならば、そもそもこのような文章を書かないだろう。
4 ア 最後の段落に羽根の枚数が多いときのマイナス面が書かれている。
イ 2017年度の日本における再生可能エネルギーの総発電量に占める割合は、水力8.9%、水力以外(太陽光や風力など)2.4%で、合計は10%をこえている。
ウ 本文では再生可能エネルギーの発電量について説明されているが、発電量を増やさなければならぬとは書いていない。

③

- 1 「おかあさん」が三か月くらい入院するあいだ「まゆみ」はどのように生活するのか。「おとうさん」が出張のおおい仕事をしているのならば、「まゆみ」は「おばさん」のところで生活するのが一番よいだろう。小学三年生がひとり生活するのは現実的ではない。
- 2 「うち」は「おばさん」のことばであるから「うちの子」とは「わたしの家の子」といった意味になる。
- 3 まよった結果、かえで小学校へ「転校」することになったのである。
- 4 「おかあさんの入院」が「わけ(理由)」であることはつかめていただろう。後は字数にあうことばをさがすことになるが、数えまちがないように気をつけよう。
- 5 学校に行っていないときは常に感じてしまうこと、「おばさん」が学校にいる間だけでもわすれさせてやりたいと考えていることは何か。「心配」と並列されていることもヒントになる。「まよい」はもうないだろうし、「転校」をわすれることもないだろう。「かんせん」は学校だけでなくおばさんの家でも心配する必要がある。
- 6 「こまること」と逆接でつながれていることばである。そして、すぐ後の「つらいことはわすれて、前へすすまなければならない」から「だいな」が答えになる。
- 7 直前に「だからわたしも」とある。「まゆみ」がどうなることで、つらいことをわすれて前へすすめるようになるのか。「等先生」のことばに「がんばって、わすれんぼうになろうよ」とあった。
- 8 『「そうかあー」こずえがいうと、四人もいっしょにうなずきました』から「おばあちゃん」に話を聞いたのはこずえとほかの四人で合わせて五人であることがわかる。